

# 士幌町ミニトマト栽培の視察

3月10日(木)、高岡施設園芸生産組合による先進地視察が行われました。場所は十勝管内士幌町、JA士幌バイテク研究所でJAいしかり青果課、農業総合支援センター、石狩農業改良普及センター石狩北部支所職員も同行しました。

昭和61年に300坪ハウスが94棟建てられて、当初は農家ヘリースをして主にイチゴを栽培していましたが、現在は儲かる作物を模索しながらミニトマトの養液栽培を中心に農家用ハウス4棟以外は職員によって栽培されています。出荷先は8割がカゴメ等の契約会社、2割が直売所としており昨年の収穫量は378トン、販売金額約2億6千万円となっています。

組合員は養液栽培によるメリット、デメリット、栽培システムの説明を担当職員より熱心に聞き入っていました。本視察が今後の組合員の活動の参考になればと期待しています。



# アイスプラントについて

昨年より新たなブランド化事業として、試験圃場で栽培された作物の一つアイスプラントについて紹介します。

アイスプラントはアフリカ原産、ほうれん草の遠縁で砂漠の雑草になります。

表面には朝露のような小さい粒々がついており、口に入れるとシャキシャキとした歯ごたえがあり少々の塩気が感じられます。これは海水でも成長し、植物体内に塩をためる性質もあり表面の粒々が塩類を包み込んだ細胞が膨らんだものであります。

また肝臓への脂肪蓄積を抑え血糖値を下げる成分が豊富に含まれています。サラダ、天ぷらなどの料理やスイーツの材料として使われています。



石狩市農業総合支援センター通信  
第7号 2011年3月発行

あなたの農業経営をサポートします。

# アグリいしかり



高岡産「チコリ」

和名は菊苣菜（キクニガナ）サクサクした歯ざわりで、ほのかな芳香があります。ベルギー、オランダで盛んに栽培されています。



## 主な内容

- ・高岡産「チコリ」について
- ・地産地消フェスタ2011について

石狩市農業総合支援センター  
☎ (0133) 66-3345

# 高岡産「チコリ」の収穫、販売開始

前回号でもお伝えしましたが高岡地区の藤岡浩晃さん、竹永啓一さんの圃場で石狩農業改良普及センター石狩北部支所、農業総合支援センターとの協同事業で昨年からの欧州産野菜「チコリ」の栽培に取り組んでいます。

昨年7月に種まき11月に根株を収穫して、根株は倉庫内の断熱材を使用した室にミニコンテナで約4週間水耕栽培を行うと、小さなハクサイの形をした「チコリ」の収穫が可能になります。1月からホクレンショップ前田店、ホクレンフードファーム屯田8条店で一個200円前後での販売を開始しました。

食べ方はマヨネーズやチーズに合わせたり、炒め物といっしょに食べたりどんな料理にしてもおいしく食べられ、体にも良く肝機能を高め便秘などに効果があるといわれています。

また「チコリ」を収穫した後の根株は、乾燥させてコーヒー風味の飲料として利用もできます。2月19日に行われた「いしかり地産地消フェスタ2011」では試食販売、試飲が行われました。

栽培の様子はSTVどさんこワイド179「ときめき野菜通信」のコーナーでも取り上げられ2月25日（金）にテレビ放送されました。収穫は3月いっぱい行われます。



▲取材の風景

# 地産地消フェスタ 1, 300人のにぎわい

今年で2回目となる「いしかり地産地消フェスタ2011」が2月19日（土）、花川北コミュニティセンターで行われました。石狩市、JAいしかり、商工会議所などで組織する実行委員会の主催。市内外から27団体が参加して石狩産の農水産物や加工品約100品が販売されました。

そのなかには昨年11月に高岡施設園芸組合で試作したジャムに似たスパイシーな味の「青いミニトマトチャウ」の試食会も行われ多くの方に好評でした。

また調理実習室ではニシン・ホタテを使った料理教室も行われ、参加者は講師からの説明を真剣に聞きながら料理にチャレンジしていました。

午後からはシンポジウムが開かれ、基調講演で美深町雪中貯蔵キャベツ研究会の伊藤清代表が「消費者と作る雪中越冬キャベツ」と題して講演され、続いて「石狩だから出来る！新たな農水産の魅力と価値」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、生振地区の農家中田直幸さんほか市内農水産業関係者3名が石狩の魅力や商品などについて意見が交わされました。



▲パネルディスカッション



▲基調講演



▲藤岡農園・竹永農園（奥側）  
高岡施設園芸生産組合



▲熊倉ファーム



▲JAいしかり



▲増田農園



▲斉藤畜産



▲料理教室

